

第2回認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議
（「認知症を知る1年」報告会）

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005
表彰式・地域活動報告会

■日時：平成18年2月4日（土）九段会館



主催：認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議
「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005実行委員会

**第2回認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議(「認知症を知る1年」報告会)
「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005 表彰式・地域活動報告会**

プログラム

◆第1部(「認知症を知る1年」報告会)

開会	堀田力(認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議議長)
来賓挨拶	磯部文雄(厚生労働省老健局長)
「認知症ホーター100万人キャラバン」	菅原弘子(全国キャラバン・メイト連絡協議会)
「認知症の人『本人ネットワーク』支援」	勝田登志子(呆け老人をかかえる家族の会副代表理事)
報 「認知症の人や家族の力を活かした	永田久美子(認知症介護研究・研修東京センター主任研究主幹)
ケアマネジメントの推進」	
告 『「認知症になってもだいじょうぶ」	柴山漢人(認知症介護研究・研修大府センター長)
町づくりキャンペーン2005」	
100人会議の今後の活動について	認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議 事務局
若年認知症患者からのメッセージ	彩星の会
“シャンソンにのせて”	

◆第2部(「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005表彰式・地域活動報告会)

開会	堀田力(「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005選考委員長)
来賓挨拶	赤松正雄(厚生労働副大臣)
厚生労働大臣奨励賞表彰	表彰: 赤松正雄(厚生労働副大臣)
	受賞: 「『小山のおうち』の実践10年と『交流塾』の展開」医療法人エスポアル 出雲クリニック 重度認知症老人デイケア 小山のおうち(島根県出雲市) 施設長 高橋幸男
認知症介護研究・研修センター 奨励賞 表彰	表彰: 長谷川和夫(認知症介護研究・研修東京センター長)
	受賞: 「若年・軽度認知症専用自立型デイサービス『もの忘れカフェ』から みえてきたもの」医療法人藤本クリニック デイサービスセンター(滋賀県守山市) デイサービスセンター所長 奥村典子
表 呆け老人をかかえる家族の会 奨励賞 表彰	表彰: 高見国生(呆け老人をかかえる家族の会代表理事)
	受賞: 「介護家族の交流・研修と認知症の理解を地域に広めるための発信」 阿倍野介護家族の会・えがおの会(大阪府大阪市阿倍野区)代表 横尾禮子
彰 住友生命保険相互会社奨励賞 表彰	表彰: 横山進一(住友生命保険相互会社取締役社長)
	受賞: 「共生型グループホームながさかの実践~年齢や障害を越えて、誰もが地域で 暮らし続けるために~」社会福祉法人白石陽光園(宮城県白石市)八島浩
特別賞表彰	表彰: 長谷川和夫(「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005)実行委員長)
	受賞: 「SPSD(認知症模擬演技者)による支援プログラムづくり」 特定非営利活動法人アビリティクラブ たすけあい(東京都世田谷区) 香丸眞理子
厚生労働大臣奨励賞	受賞: 「発信!『忘れても、しあわせ』の思い」認知症本人・小菅マサ子&介護家 族・小菅もと子&地域の人たち(愛知県豊明市) 小菅もと子
紹介、発表	受賞: 「認知症こそマイケアプラン『あたまの整理箱』『マイケアプランの玉手箱』の作成」 全国マイケアプラン・ネットワーク(東京都府中市) 島村八重子
認知症介護研究・研修センター 奨励賞 紹介、発表	紹介: 北良治(北海道奈井江町長)
呆け老人をかかえる家族の会 奨励賞 紹介、発表	発表: 医療法人エスポアル出雲クリニック 重度認知症老人デイケア 小山のおうち
住友生命保険相互会社奨励賞 紹介、発表	紹介: 小宮英美(日本放送協会解説委員)
	発表: 医療法人藤本クリニック デイサービスセンター
	紹介: 長嶋紀一(認知症介護研究・研修仙台センター長)
	発表: 阿倍野介護家族の会・えがおの会
	紹介: 中島紀恵子(新潟県立看護大学学長)
	発表: 社会福祉法人白石陽光園(宮城県白石市)

本日(1部、2部全体)のまとめ 長谷川和夫(認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議幹事、
「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005実行委員長)
(閉会後に会場内で、第2部の奨励賞・特別賞受賞者の方を中心とした情報交換会を開催)

目 次

I. 第1部 「認知症を知る1年」報告会

1. 開 会 (認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議議長 堀田力) 4
2. 挨拶 (厚生労働省老健局長 磯部文雄) 5
3. 年間活動報告
- 1) 報告1 「認知症サポーター100万人キャラバン」 6
- 2) 報告2 「認知症の人『本人ネットワーク』支援」 7
- 3) 報告3 「認知症の人や家族の力を活かしたケアマネジメントの推進」 9
- 4) 報告4 「『認知症でもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン2005」 11
- 5) (資料) 啓発活動の拡大および広報活動 12

II. 第2部 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005

表彰式・地域活動報告会

1. 挨拶 (「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005選考委員長 堀田力) 13
(厚生労働副大臣 赤松正雄) 13
2. (資料) 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005の概要 14
3. (資料) 全国から寄せられた地域活動一覧(受付順) 16
4. 奨励賞、特別賞表彰式 17
5. 奨励賞活動報告
- 医療法人エスポアール出雲クリニック重度認知症老人デイケア 小山のおうち(島根県出雲市) 19
- 医療法人藤本クリニック デイサービスセンター(滋賀県守山市) 20
- 阿倍野介護家族の会・えがおの会(大阪府大阪市阿倍野区) 23
- 社会福祉法人白石陽光園(宮城県白石市) 25
6. (資料) 特別賞活動紹介
- 特定非営利活動法人アビリティクラブたすけあい(東京都世田谷区) 28
- 認知症本人・小菅マサ子&介護家族・小菅もと子&地域の人たち(愛知県豊明市) 29
- 全国マイケアプラン・ネットワーク(東京都府中市) 30
7. 本日のまとめ 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005実行委員長 長谷川和夫 31
- 参考資料1【100人会議の趣旨・役割】【認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議宣言】 32
- 参考資料2【「認知症を知る1年」キャンペーンの事業】【認知症サポーターについて】【シンボルマークについて】 33
- 参考資料3【「認知症を知り 地域をつくる10ヵ年」の構想】 34
- 参考資料4【認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議会員名簿】 35

I. 第1部 「認知症を知る1年」報告会

1. 開会

認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議議長 堀田 力

堀田でございます。

ようこそいらしていただきました。今日は寒い日で、テーマは認知症という地味なテーマであります。これだけの皆様方に集まっていたいただきましたことに感激いたしております。

この100人会議、「認知症を知る1年」キャンペーンが去年の7月にスタートいたしまして、本当にびっくりするほど活動が広がっております。ここでもやってくださる、あちらでもやってくださると、驚くほどに全国のいろんな地域で認知症の方々を支えようという運動が盛り上がり、サポーターの方がオレンジリングをはめていて下さいます。格好よくつけていてくださるところを見て本当に感激いたしております。はっきり言いまして、100人会議会員をやってくださる方は無償で貴重な時間を提供してくださって、今日も前列に時間単価のたいへん高い方々が無償で参加していただいて(笑)、発言の機会もなく座っていただいている。それだけで、これはたいへんな力であります。すばらしい方々が参加してくださり、活動に働きかけてくださっています。



厚生労働省もこれだけたいへんな問題でありますので、ぜひエネルギーを出していただきたいとあえて申し上げておきます。これだけ運動が広がるのも、皆様方、そして全国各地の認知症に何とか取り組んでみんなが幸せになれるようにという熱い思いがあればこそです。そういう思いに乗って始めさせていただいたこの運動が、大きな時の流れにうまく合致して、大きなエネルギーを引き出すことができたという風に思っています。心から感謝いたしております。この運動は「認知症を知る1年」キャンペーンということでスタートして、これだけ広がってまいりました。さらに継続して10年先のすばらしい仕上がりに向かって参りたいと思います。

今日はそのためにも、どれだけの事をやれたのか、そしてどこが問題なのか、まずは第1部でその共通認識を持ちたいということでもあります。すばらしい報告が続くと思います。

みんなでがんばっていきましょう。ありがとうございました。

2. 挨拶

厚生労働省老健局長 磯部文雄

ただいまご紹介いただきました磯部でございます。
昨年の7月に堀田先生を始めとして100人会議の皆様方で会議を
発足していただいて、それぞれのお立場で認知症を知る1年という
キャンペーンにご協力をいただいております。
厚くお礼申し上げます。



わが国では要介護認定を受けておられる方々の半数近くの約1
70万人の方が認知症で、そして今後20年間でそれが倍増するの
ではないかと見込まれております。わが国の高齢者施策の上で、認知症への対応は最優先で取り組むべ
き課題であると考えております。本年4月から改正されました介護保険法が施行されますが、認知症の方
を支える意味で、高齢者の尊厳の保持を基本とした地域密着型サービスの創設、あるいは地域包括支援
センター、総合的なマネジメントの整備を進めていきたいと考えております。

また、国の制度的な対応以外にも、それぞれの場所で、例えば医療では早期の適切な診断をやっていた
ただかなければなりませんし、またご本人やご家族に対して認知症に関する知識と理解をしていただくよ
うに支援をしていくこと、介護サービスでは医療と連携をとってそのサービスの質の向上を図っていくと、こ
うしたことを総合的に進めて、認知症になっても安心して暮らせる町づくりを実現していくことが非常に重
要だろうと思います。

この「認知症を知る1年」の運動につきましては、国民の皆様一人一人に認知症についての正しい知識
を持っていただき、認知症の方々が尊厳を持って暮らし続けることをささえる地域づくりというものをめざし
ておりますが、皆様のご尽力によりまして順調なスタートを切ったのではないかと考えております。

本日はこのあとにさまざまな地域やさまざまな分野での取り組みのご報告がありますが、われわれ厚生
労働省といたしましてもこの1年の成果を踏まえまして、さらにこうした運動を定着普及させていくとともに、
全国のすべての市町村が認知症になっても安心して暮らせる町になるよう今後も共に努力をしてまいり
ます。

最後になりましたが、この100人会議の事務局としてご活躍いただいております国際長寿センター、呆
け老人をかかえる家族の会、認知症介護研究・研修東京センターの皆様、また協力機関としてご活躍を
いただいております全国キャラバン・メイト連絡協議会に厚くお礼申し上げます。

お集まりの皆様のこの運動への引き続きのご協力をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

3. 年間活動報告

1) 報告1「認知症サポーター100万人キャラバン」全国キャラバン・メイト連絡協議会菅原弘子

◆認知症サポーター100万人キャラバンとは◆

認知症を理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する人（認知症サポーター）を1人でも増やし、認知症になっても安心して暮らせる町づくりを市民の手で展開していくものである。

認知症サポーターの育成にあたっては、まず認知症の正しい知識と具体的な対応方法などを市民に伝える講師役（キャラバン・メイトと呼ぶ）を養成する。

このキャラバン・メイト養成研修は昨年8月末札幌市を皮切りに、今年度末までには約40箇所にあつた研修会が実施される予定である。

キャラバン・メイトと認知症サポーター養成の実施状況(平成18年1月26日現在)

キャラバン・メイト養成実施状況

I. メイト総数	3,272 人
(1)キャラバン・メイト養成研修修了者数	1,664 人
(2)全国農業組合中央会研修修了者数	1,608 人
II. メイト養成研修実施状況	
(1)キャラバン・メイト養成	
研修実施自治体数	16 (18回)
17年度内実施予定自治体数	22 (24回)
(2)全国農業組合中央会キャラバン・メイト養成	
研修実施組合数	22 (36回)
17年度内実施予定組合数	15 (20回)

認知症サポーター養成状況

I. サポーター総数 21,913 人

実施主体	人数	サポーター活動場所	
(1)地域(自治体養成)サポーター	3,988 人	地域住民	1,920 人
		職域・企業団体	1,222 人
		学校関係	846 人
(2)全国農業組合中央会研修サポーター	4,532 人	JA 組合員	
(3)世界アルツハイマーデー記念講演会参加者等	13,463 人	不特定のため不明	

II. サポーター講座実施状況

(1)認知症サポーター養成講座	
実施市町村数	23 自治体(86回)
17年度内実施予定市町村数	32 自治体(89回)
(2)全国農業組合中央会サポーター養成講座	
実施組合数	58 組合 (128回)
17年度内実施予定組合数	58 組合 (90回)
(3)その他	
(社)呆け老人をかかえる家族の会	
「世界アルツハイマーデー記念講演会」開催支部数	30 支部 (32回)
その他シンポジウム、セミナー開催団体	3 団体 (5回)

2) 報告2「認知症の人『本人ネットワーク』支援」

呆け老人をかかえる家族の会副代表理事 勝田登志子

本人の思い・家族の願いをつなぐ社会に伝えるために
呆け老人をかかえる家族の会

1. 本人の思い

わたしの 病気について知ってもらいたいです。

わたしの ねがいを知ってもらいたいです。

まわりに ささえる人がいれば、普通にすごせることを 知ってもらいたいです

わたしとおなじ病気の人が、おだやかに くらすためのかんきょうをねがってます。

『本人の思いとは何か』より

2. 2004 年京都国際会議

越智さんの発言



3. 呆け老人をかかえる家族の会のこれまでの活動



4. 本人ネットワークの必要性

- ・本人の思いがあまりにも知られていない
 - ・本人の思い・家族の願いを大切にしたい支援が足りない
 - ・本人の思いを知ることが難しい
 - ・本人の思いを表せる機会・場・仲間をもつことが難しい
- ☆もっと本人が早期から安心して思いを表せる場・仲間や情報・知恵を得られるつながりが必要

5. 今年度「本人ネットワーク」支援の取り組み

1) 本人の場に関する情報収集

- ① 呆け老人をかかえる家族の会の「つどい」の場、ノウハウ
実態調査

②その他、本人の参加している活動

本人の声を聴いて活動しているデイサービス、
地域の家族会(若年期認知症の会)

2)ホームページ、報告書作成

3)本人の思い 本などのリストづくり

6. ホームページ、つどい、書籍などの紹介

<http://www.dai-jobu.net/>

7. 本人ネットワークを各地で育てていくためのポイント

- * 家族支援、家族会活動と必ずセットで
家族の支援抜きには、「本人ネットワーク」は実現しない
- * すでに始まっている先駆的取り組みからノウハウをしっかりと学ぼう、伝えていこう
場作り、支え手のあり方、内容、配慮点ほか
- * 本人が集いやすい小さな場を各地で育てよう
- * 必要な人が「本人ネットワーク」の存在を早く知ることができるように
- * 地道に時間をかけて
来年以降もキャンペーンと連動して継続した取り組み

8. 本人の思いを知るための参考資料リスト

1)書籍

○家族の会が出版している書籍

- ・ ぼけても安心して暮らせる社会をⅡ、呆け老人をかかえる家族の会の25年誌、2005
- ・ 痴呆の人の「思い」に関する調査、2004
- ・ 「痴呆の人の思い、家族の思い」中央法規、2005
- ・ 「本人の思いとはなにか」クリエイツかもがわ、2005

○家族の会の出版以外の書籍

- ・ 「私は誰になっていくの?・アルツハイマー病者からみた世界」かもがわ出版、2003
- ・ 「私は私になっていく・痴呆とダンスを」かもがわ出版、2004
- ・ 「アルツハイマーと闘う・言葉と記憶がすべり落ちる前に」原書房、2003
- ・ 「痴呆を生きるということ」岩波書店、2003
- ・ 「認知症とは何か」岩波書店、2005
- ・ 「物語としての痴呆ケア」三輪書店、2004



2)映像

- 「認知症の人から学ぶ～クリスティーン・ブライデン講演より～」(第1巻～第3巻) シルバーチャンネル、2003
- 「痴呆の人の体験世界を感じてみよう」 シルバーチャンネル、2002

3) 報告3「認知症の人や家族の力を活かしたケアマネジメントの推進」

認知症介護研究・研修東京センター主任研究主幹 永田久美子

～本人と家族の尊厳を保つために～

◇事業内容－今年度の取り組み(2006年1月末現在)

○「本人・家族」からプロ(ケアマネジャーら)へ、思いや生活実態等を情報発信することの大切さ、それをスムーズに行うための共通道具としてシートの活かし方を広く伝える。

- ・介護家族や一般市民の認知症講座等で伝達
全国 10ヶ所 約1,500人対象
- ・医療・福祉関係者の研修で伝達
全国 130ヶ所 約16,000人対象

○「家族の声と力を活かしたケアプラン」の推進

- ☆講座開催 : 全国3ヶ所(愛知、千葉、東京)
- ☆中間報告会: 12月4日(愛知)
- ☆家族からの取り組み実例をもとに、「本人・家族の力を活かしたケア」のための実践ガイド(試行版)、家族による活用事例集、の作成

◇中間報告会



呆け老人をかかえる家族の会愛知県支部にて
2005年12月